

東日本高速道路株式会社 北海道支社
支 社 長 堀 圭一

質問書に対する回答

(工事名) 道東自動車道 東占冠トンネル工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	【仮設栈橋設置工 A】 支持杭の打設は、200 t クローラークレーンによる、ダウンザホールハンマー工法+砂充填でよろしいでしょうか。	ご認識のとおりです。
2	【仮設栈橋設置工 A】 支持杭のダウンザホールハンマーによる、削孔長の記載が数量表にありませんが、Φ 500 が 63.1m、Φ 600 が 471.9m でよろしいでしょうか。 土質区分毎の削孔長を示していただけないでしょうか。	ダウンザホールハンマーの削孔長は、以下が正となります。 (Φ 500) 土質区分 2 : 34.3m、土質区分 3 : 28.7m (Φ 600) 土質区分 2 : 33.5m、土質区分 3 : 434.4m
3	【仮設栈橋設置工 A】 砂充填後のバイブロハンマによる打設本数は 92 本でよろしいでしょうか。	ご認識のとおりです。
4	【仮設栈橋設置工 B】 支持杭の打設は、200 t クローラークレーンによる、ウォータージェット併用バイブル工法でよろしいでしょうか。	ご認識のとおりです。

番号	質問事項	回答
5	<p>【仮設桟橋設置工 B】</p> <p>設計図、仮桟橋 B 数量表（2）（大滝橋）67/88によれば、ダウンザホールハンマー工法 ϕ 550 削孔長 178m、砂充填 38.4m³、支持杭打設 39 本が計上しています。</p> <p>ウォータージェット併用バイブロ工法が正しければ、数量表を修正していただけないでしょうか。</p>	<p>ウォータージェット併用バイブル工法が正となります。</p> <p>ウォータージェット併用バイブル工法の支持杭打設長は、以下のとおりとなります。</p> <p>L=5m : 10 本、L=6m : 20 本、L=12m : 4 本、L=15m : 5 本</p>
6	<p>【仮設桟橋設置工 B】</p> <p>金抜設計書の数量は、342m²（幅員 6m × 延長 57m）、特記仕様書では、456 m²（幅員 8m × 延長 57m）、設計図では、完成時 342m²、架設時 424m²（幅員 8m × 延長 41m + 幅員 6m × 延長 16m）どの数量が正しいでしょうか。</p>	<p>完成時は 342 m²、架設時は 424 m²が正となります。</p>
7	<p>【仮設桟橋設置工 B】</p> <p>設計図では、架設した上部工の 82m² 分（幅員 2m × 延長 41m）を、撤去する計画になっています。</p> <p>その撤去分の資材は、特記仕様書に示す用に中古品で計上するのでしょうか。又、工事完了後に、342m² の桟橋を撤去する際には、また、82m² 分の上部工を架設する必要がありますが、その架設費用を本項目に計上してよろしいでしょうか。</p> <p>資材が、中古であれば、82m² 分を架設時に、撤去する意味はないと思します。</p>	<p>82 m² 分の上部工はリース品となります。</p> <p>仮桟橋設置工 B 及び仮桟橋撤去工 B において、82 m² 分の上部工の設置・撤去を実施することとなります。</p>

番号	質問事項	回答
8	<p>【仮設桟橋設置工 B】</p> <p>設計図、仮設桟橋 B 数量表 (1) 66/88 上部工（設置のみ）の合計数量が、163.337 t とありますが、内訳を集計すると、86.168 t になります。</p> <p>何が、正しいのかわからないので、正しい数量を示して下さい。</p>	<p>86.164t が正となります。</p> <p>数量表は訂正いたします。</p>
9	<p>【仮設桟橋設置工 C】</p> <p>設計図、仮設桟橋 C 詳細図 (9) 76/88 仮桟橋 C 数量集計表で、支持杭削孔長 ダウンザホールハンマー工 砂質土 44.7m、軟岩 4.8m とありますが、図面から算出するとそれぞれ、40.1m、4.5m となります。</p> <p>数量表のとおりでよろしいでしょうか。</p>	<p>砂質土は 40.1m、軟岩は 4.5m が正となります。</p>
10	<p>【仮設桟橋撤去工 C】</p> <p>直接コンクリート基礎は撤去でしょうか、それとも残置でしょうか。</p>	<p>直接コンクリート基礎は撤去となります。</p> <p>仮桟橋撤去工に含まれます。</p>
11	<p>【仮設桟橋設置工 D】</p> <p>設計図、仮設桟橋 D 詳細図 (2) 78/88 仮桟橋 C 数量集計表で、支持杭 H-400 L=6m の重量が合計 4300 kg とありますが、5160 kg の誤りではないでしょうか。</p>	<p>支持杭 H-400 は、L=5m で 4,300 kg が正となります。</p>
12	<p>【仮設桟橋設置工 D】</p> <p>直接コンクリート基礎は撤去でしょうか、それとも残置でしょうか。</p> <p>大型土のうは撤去でしょうか、それとも残置でしょうか。</p>	<p>直接コンクリート基礎及び大型土のうは撤去となります。</p> <p>仮桟橋撤去工に含まれます。</p>
13	<p>【仮設桟橋設置工 E】</p> <p>設計図、仮設桟橋 E 詳細図 (4) 87/88 仮桟橋数量集計表で、覆工板の 1m × 3m の数量が 168m² ですが、図面から算出すると 204m² になります。</p> <p>ご確認いただけないでしょうか。</p>	<p>204 m² が正となります。</p>

番号	質問事項	回答
1 4	<p>【設計図 トンネル 86/171、設計図 参考図 21, 22/40】</p> <p>避難連絡坑 C II (STA. 844+41) の発破区間長が、設計図 86/171 と参考図 21, 22/40 で異なります。</p> <p>設計図を正と考えてよいですか。</p> <p>(正) 制御発破 L=16207、(誤) 標準発破 L=6907、制御発破 L=9300</p>	設計図が正となります。
1 5	<p>【設計図 トンネル 88/171、設計図 参考図 24/40】</p> <p>避難連絡坑 C I (STA. 851+05) の無発破区間長が、設計図 88/171 と参考図 24/40 で異なります。</p> <p>設計図を正と考えてよいですか。</p> <p>(正) 無発破(割岩工法) L=10600、(誤) 無発破(割岩工法) L=10400</p>	設計図が正となります。
1 6	<p>【金抜設計書 番号 133-135】</p> <p>トンネル支保パターン図(34, 35/171)において、避難連絡坑 C I -K-S2、C II -K-S2、D I -K-S2 の吹付コンクリートは、設計吹き(5cm または 10cm)と補強吹き(25cm)をするようになっていますが、金抜設計書(番号 133-135)の C I -S2、C II -S2、D I -S2 の吹付仕様は t=25cm です。</p> <p>設計吹き分の費用は、C I -S2、C II -S2、D I -S2(番号 133-135)の項目に含めると考えてよいですか。</p>	以下の単価項目に含まれております。 吹付けコンクリート t=50 (100) は、吹付けコンクリート B (t=5cm) C I -S1、C II -S1、吹付けコンクリート B (t=10cm) D I -S1。
1 7	<p>【特記仕様書 P. 14】</p> <p>特記 16-1 にある「滝の沢林道」と「東占冠林道」について、「滝の沢林道」は滝の沢川橋 A 付近を迂回させる付替道路と同一ですか。</p> <p>「東占冠林道」は仮桟橋 B(大滝橋仮桟橋)の東側を通る路線とあります。</p>	<p>「東占冠林道」は滝の沢川橋 A1 付近を迂回させる付替道路となります。</p> <p>「滝の沢林道」は仮桟橋 B(大滝橋仮桟橋)の東側を通る路線となります。</p>

番号	質問事項	回 答
1 8	<p>【設計図 工事用道路 2/88】</p> <p>付替道路(林道迂回路)へのアクセスルートは滝の沢工事用道路③の EP(終点)側からと考えてよいですか。</p> <p>また、滝の沢工事用道路②の EP(終点)は行き止まり(付替道路にアクセスできない)と考えてよいですか。</p>	ご認識のとおりです。
1 9	<p>【割掛 雜工事費 切土部施工基面の整形費】</p> <p>割掛け 雜工事費にある切土部施工基面の整形:2,120m² の「土砂」と「軟岩 B」の数量をご教示いただけますか。</p> <p>(閲覧資料の数量計算書(REPORT14)P2-48 から 「軟岩 B 1,419m³」、「土砂 701m³」と推定されますが、この数量で良いですか)</p>	土砂 : 922.7 m ² 、軟岩 B : 1,418.6 m ³ となり、切土部施工基面の整形 : 2,341.3 m ² が正となります。
2 0	<p>【特記仕様書 P. 34】</p> <p>STA. 834+54. 867 C-Box で使用される普通鋼矢板III型の運搬費が割掛けに計上されていません。</p> <p>この費用は単価表のどの項目に含まれますか。</p>	構造物掘削 特殊部Aに含みます。
2 1	<p>【特記仕様書 P. 34】</p> <p>STA. 834+54. 867 C-Box で打設する普通鋼矢板III型は、残置させますか、それとも引き抜きますか。</p> <p>特記には設置の記載しかありません。</p>	普通鋼矢板III型は、上部 500 mmを切断し残置となります。

番号	質問事項	回答
2 2	<p>【割掛 雜工事費 坑口切付費】</p> <p>坑口切付費の割掛参考内訳書には吹付コンの厚さが $t=25\text{cm}$ になっています。</p> <p>一方、参考図坑口処理工図(1) (2) 19, 20/40 では吹付コンクリートの厚さが $t=20\text{cm}$ になっています。</p> <p>参考図の厚さ $t=20\text{cm}$ が正と考えてよいですか。</p>	$t=20\text{ cm}$ が正となります。
2 3	<p>【割掛け 雜工事費 土砂等防止柵費】</p> <p>割掛け 雜工事にある土砂等防止柵(盛土のり面用)と(切土のり面用)は、参考図 40/40(土砂防止柵詳細図)の 1 枚の図面で示されています。</p> <p>この詳細図には、土木工事積算基準 P6-12 の「盛土のり面用の柵」の断面しか記載されていません。</p> <p>このため、「盛土用の柵」と「切土用の柵」は同一の仕様で積算すると考えてよいですか。</p>	ご認識のとおりです。
2 4	<p>【割掛け 仮設備工事費 ダンプトラック運転費】</p> <p>割掛け対象表参考内訳書に坑外仮置場までの往復走行時間が 23.7 分とあります。</p> <p>これにダンプ平均速度を乗じると $250\text{m}/\text{min} (15\text{km}/\text{h}) \times 23.7 \text{ 分} = 5,925\text{m}$(往復)、つまり片道が約 3km の計算になります。</p> <p>トンネル全長 2.5km+坑外仮置場までの距離 0.5km が約 3km で、ほぼ同距離になりますが間違いはありませんか。</p>	13.9 分が正となります。

番号	質問事項	回答
25	<p>【割掛 準備工事費 工事用道路維持補修費】</p> <p>特記 16-3(1)において受注者が散水・清掃等の維持及び補修を行う工事用道路は、特記 16-1 に示す番号 2、3 及び 4(滝の沢工事用道路①、②及び③)とあります。</p> <p>一方、割掛け参考内訳書 準備工事費の工事用道路維持補修費の内訳には、滝の沢工事用道路①～③以外の道路が記載されています。</p> <p>工事用道路維持補修費の対象となる道路は、特記に示された 3 路線のみと考えてよいですか。</p>	特記仕様書 16-3 (1) が正となります。
26	<p>【特記仕様書 P.53】</p> <p>特記 28-14-1(2) トンネル掘削の種別○-S1-B、○-S-B-F の摘要欄に「インバート仮埋め戻し・積込み含む」の記載があります。</p> <p>これは全体のサイクルタイムに「インバート仮埋め戻し」に係わる時間を含め、かつ仮埋戻しに要する費用は関連する単価表の項目の単価に含む、と考えて良いですか。</p>	ご認識のとおりです。
27	<p>【特記仕様書 P.53】</p> <p>特記 28-14-1(2) 表にある、インバート仮埋戻しに係わる数量根拠が設計図書および閲覧資料にありません。</p> <p>該当する掘削パターンのインバート仮埋め戻し数量または仮埋戻し面積をご教示いただけますか。</p>	○-S1-B は 13.052 m^2 、○-S-B-F は 10.011 m^2 が正となります。
28	<p>【1/11 訂正⑧金抜設計書】</p> <p>1/11 訂正⑧金抜設計書において番号 28、種散布工が $20,765 \rightarrow 20,660 \text{m}^2$ に変更されています。</p> <p>正誤表にはありませんが、$20,660 \text{m}^2$ が正として良いですか。</p>	$20,765 \text{ m}^2$ が正となります。

番号	質問事項	回 答
29	<p>金抜設計書に工期は契約保証取得の日の翌日から 2130 日間との記載がありますが、交付資料⑯【工事工程表】では 2460 日間と読み取れます。</p> <p>また、⑯参考図の 4/40 工事工程表（参考図）から算出しても、終点側工事用道路、仮桟橋、A1 橋台の施工所要期間を考慮すると同程度になると思われます。</p> <p>正しい工期についてご教授願います。</p>	2460 日間が正となります。
30	<p>特記仕様書 P33 28-2-3. 構造物掘削- (1) 種別に構造物掘削 普通部 B および普通部 C は掘削場所がいずれも終点側の坑門工、軽量盛土部、終点側その他となっています。</p> <p>一方、数量明細書 1/13 の構造物掘削 普通部 B および普通部 C は本流鶴川第四橋～起点側坑門となっています。</p> <p>数量明細書の記載行は東占冠 TN 終点側坑門～滝の沢川橋 A1 が正しいとの認識でよろしいでしょうか。</p>	<p>ご認識のとおりです。</p> <p>構造物掘削 普通部 B 及び普通部 C の掘削箇所は、東占冠 TN 終点側坑門～滝の沢川橋 A1 区間の軽量盛土工、明かり部・坑門工（終点側）が対象となります。</p>
31	<p>数量明細書 1/13 の構造物掘削 普通部の内訳に軽量盛土工 640.4m³、明かり部坑門工（終点側）2,524.0m³ の記載がありますが、構造物掘削 普通部 B および普通部 C と重複していると思われます。</p> <p>正しい数量をご教授願います。</p>	<p>構造物掘削の合計数量は、以下が正となります。</p> <p>（軽量盛土工）</p> <p>構造物掘削 普通部 B : 621.8m³、普通部 C : 18.6m³ (明かり部・坑門工（終点側))</p> <p>構造物掘削 普通部 B : 113.2m³、普通部 C : 2,410.8m³</p>